

近畿

「ルールを作らず、全面的に受け入れる」 大人の都合で管理しようとするからルールを設けますが、それでは、第2の学校が生まれ、そこに合わない子どもたちを作り出すだけになるからです。ルールで縛らず、子どもたちを全面的に受け入れることを活動のベースにしています

滋賀県

NPO 法人 Links

支援対象: 小中高校生

支援方法: 学習支援、居場所づくり

スタッフ数: 非常勤スタッフ 3 名、 ボランティアスタッフ
20 名

実施団体: NPO 法人 Links

代表者: 柴田雅美



住所: 〒522-0041 滋賀県彦根市平田町 680-1
TEL: 0749-26-9820 FAX: 0749-26-9820
e-mail: shibata@npolinks.org
URL: <https://www.facebook.com/LLclass>

成り立ちと活動の全体像

NPO 法人代表の柴田雅美が、彦根市の地域おこしとして街づくりの勉強会やワークショップを開催するなどし、彦根市の市民活動家として知られていたこと、また地元大学の特任教員であったこともあり、市内中学校の PTA アドバイザーさんから、大学生が勉強を教える学習支援教室の設立を依頼されたことが活動の契機である。

平成 25 年 2 月に、当時中学 3 年生の受験直前であった 5 教科で 100 点に満たない生徒ら子どもたち 3 名・サポーター 5 名で、学び育ち教室 Learning Links をスタートした。

子どもたちは見事高校に合格しました。その子どもたちは引き続き教室に学びに来ています。

その後、彦根市内にある滋賀大学、滋賀県立大学、聖泉大学の学生や教員、地域の方がサポーターとして加わり、現在は、サポーター 14 名・子どもたち 16 名の規模で、毎週月曜日夜 7 時～9 時で運営している。

子どもも、応援するサポーターもお互いに居心地の良い居場所であることが大切

学び育ち教室 Learning Links(通称 LL 教室)は、毎週月曜日の夜に彦根市中地区公民館で開校しています。教室への出席は自由ですが、学校では生活態度があまりよくないといわれている子どもたちも、毎週休まずに来ています。

教室では原則、子どもたちがやりたいことをやります。一人で黙々と勉強する子、学校で分からないところを質問する子、学校での出来事や進路をサポートに相談する子、時間いっぱいおしゃべりしてストレスを解消している子など様々です。サポーターらはそんな子どもたちにとって何が一番よいかを敏感に感じ取りながら、サポートをしています。私たちは学習支援と居場所を兼ねた場をつくらうとしています。しかし、この場は子どもたちの居場所であれば良いではなく、サポーターというボランティアスタッフにとっても居心地の良い居場所になるようにしています。具体的には、サポーターには「子どもたちを全面的に受入

沿革

平成 18 年 9 月 NPO 法人 Links を設立。

平成 22 年 2 月 学び育ち教室
Learning Links の運営
を開始。
現在に至る。

主な活動

- ・大学生や地域社会人がサポーターとなる学習支援教室
および居場所づくり
- ・街づくり勉強会やワークショップの企画・運営
- ・地域コミュニティ FM 放送で、市民活動アワーのパーソナリティ

れる」という姿勢があれば、あとの勉強の教え方や子どもとの時間の使い方はお任せしています。塾経験のあるサポーターは、点数につながる指導が得意ですし、勉強を教えるのは得意でなくても、子どもの話を引き出すのが上手い人はそれを活かして、見守りや観察が得意な人はそれを活かす、という風にサポーターも自分ができることを自分なりに行ってもらっています。そうすることで、サポーターと子どもの双方にとって居心地の良い学習支援の機会であり、居場所になっています。

子どもたちが大切にしたい場になっている

印象に残るエピソードのひとつは、子どもたちが修学旅行のお土産を買ってきてくれたことです。参加して一年ほどになる中学三年生二人が修学旅行のお土産といって、教室のみんなにお菓子を買ってきました。少ないお小遣いを出しあってなんと 40 個も。もちろんサポーターから頼んだのではなく、子どもたちは目いっぱい楽しんでいる修学旅行のお土産を買うときになって、「教室のみんなに

買おう」と思ってくれた。たった週一回 2 時間の活動ですが、しっかりと子どもたちの中に存在する。子どもたちが大切にしたい場になっていると実感し、本当にうれしく思いました。



すべての子ども・若者が 「居場所」と「出番」を感じられる社会をつくる

滋賀県

学習支援ボランティア団体 Atlas

支援対象: 生活困窮世帯、ひとり親世帯等の小学生
～ 高校生 地域の小中学生

支援方法: 学習支援、居場所、体験・表現活動、個別プログラム

スタッフ数: 20 名

実施団体: 学習支援ボランティア団体 Atlas

代表者: 日野 貴博



e-mail: ls.atlas07@gmail.com

URL: <http://atlas-sums.jimdo.com> (HP)

成り立ちと経過、活動の全体像

平成 19 年、子どもの貧困問題を知った初代代表（当時大学生）が津市役所に相談に行ったところ、同様に貧困の連鎖を止めるための子どもの学習支援事業を構想していた市職員がおり、意気投合。同年から市（生活保護担当課）主催の子どもの学習支援事業「津市中 3 学習会」の開始が決まる。ボランティア協力をするにあたり、初代代表が同大学の友人に声をかけて団体発足に至る。その後、平成 24 年 1 月から守山市で生活困窮世帯等の中学生を対象とした学習支援事業「守山市カンフォラ第 2 の学校」の立ち上げとボランティア協力を開始。この事業は、「休める」「遊べる」「学べる」「相談できる」場であることを通して、子どもたちが「居場所」と「出番」を感じながら、生きていく力を育てていくことをねらいとしている。

事業の継続に伴い、参加している子どもの高校進学後の受け入れ（中退予防と進路等相談）と小学生の受け入れ（早期支援）をはじめ。

また、同年夏には、既存の学習支援事業に来られない子どもの生きづらさをキャッチするため、「地域の小中学生なら誰でも」対象とした自主事業「ほのぼのハウス」の取り組みをはじめ。

その他、定期的に啓発活動や他県の学習支援団体との合同研修合宿を実施。平成 25 年度からは、他の団体とのタイアップで、Atlas の活動に参加している女兒への就学支援金事業もスタートした。

僕たちにできること、子どもたちとつくること

「高校卒業したら Atlas に入りたい？」
こんなことを言った子どもがいました。彼とは出会って 3 年。高校進学後は部活に励み、活動にこない時期もありましたが、怪我の影響、学校での対人関係や親との関係の悩み、進路の悩みなどから、再び顔を出すようになりました。「この場は逃げ場やから」と語りながら、僕たちとの会話を通して自分の考えを整理し、思いを蓄積してくれているのだらうと感じます。彼はほとんど学校の勉強をしていません。学力もかなり低いです。しか

沿革

平成 19 年 6 月

学習支援ボランティア団体 Atlas
発足

平成 19 年 9 月

大津市中 3 学習会 開始
ボランティア協力スタート

平成 24 年 1 月

守山市カンフォーラ第 2 の学校
開始 ボランティア協力スタート
代表交代
インカレサークルに

平成 24 年 4 月

任意団体に。社会人メンバーの受け
入れをはじめ。
以降、活動を展開（右表参照）。

主な活動

1. 子どもの学習支援・居場所づくり活動

1-1. 行政の主催事業にボランティア協力

1-1-1. 大津市「中 3 学習会」(平成 19 年～)

1-1-2. 守山市「カンフォーラ第 2 の学校」(平成 24 年～)

対象はいずれも生活困窮世帯、ひとり親世帯等。学習支援及び
居場所づくり。守山市事業では個別プログラムも行う。

1-2. 自主事業「ぜぜ ほのぼのハウス」(平成 24 年～)

対象は大津市膳所学区の小中学生誰でも。主に長期休暇期間の
宿題サポートや体験・表現活動を行う。

2. 啓発活動

講演会、講師派遣、執筆・寄稿、子どもの貧困を啓発する「虹色リボ
ン運動 (<http://rainbow-ribbon.jimdo.com>)」等

3. 交流活動

他県で学習支援事業を行う団体と合同研修合宿の実施(平成 24 年～)

4. 就学支援金事業(他支援団体とのタイアップ)

活動参加児童への就学支援金事業の実施(平成 25 年～)

しながら、「この場に恩返しをしたい」と語り、「人のために何かをする」ことに力を注ぐようになってきています。彼はいつしかこの場に、「支援をしてもらうこと」だけでなく、「自分が(人のために何かを)すること」を求めるようになったようです。

「僕たちにできること」を考えてみると、やはりまずは彼の「逃げ場」として機能すること、そして彼が「誰かのために何かをする」機会をつくることだと思いました。彼はケーキづくりを得意としていたので、「今年のクリスマスにケーキつくってくれんか?」と聞くと「ええで!」と二つ返事でした。クリスマス会の企画自体も任せてみると、結果は大成功。そのイベントを皮切りに、今では半スタッフ半子どもの関わりをしてくれています。しばらくは、彼の「大人 子ども」「支える 支えられる」の移行期を支えられたらええなと思っています。

これからの活動のこと

「学習支援」を団体名に入れていますが、日増しに「学習を支援する」取組みから離れていっている気がします。しかしながら、活動のあり方は目の前にいる子どもによって変容していくものだと思うので、「思い」だけぶれないように、これからも子どもたちと活動をつくっていきたいと思います。



子どもも大人もありのままのじぶんで いいんだと感じられる場所づくり

滋賀県

うかの冒険遊び場

支援対象: 子ども、保護者

支援方法: 遊び場を通じて

スタッフ数: 1名

実施団体: うかの冒険遊び場

代表者: 振角大祐



住所: 〒521-0013 滋賀県米原市梅ヶ原 2303
ブリリアントガーデン B 棟 102 号
TEL: 090-6917-7319
e-mail: furicadodaisuke@gmail.com

成り立ちと活動の全体像

子どもたちが自由に遊ぶ時間が無くなっているように感じます。昔の放課後のように何も無いけど、子供同士であそんで充実している、そういう時間を取り戻したいと思っています。

そのために冒険遊び場を開催しています。

目指す場所

『子どもが「ありのままの自分で良いんだ」と感じられる場所作り』

子どもが、ありのままの自分で良いと思えることが一番大事だと思います。

『自由にあそんでも良いし、あそばなくてもいい。子どもの、まるごとを受け止めたい』

そういう眼差しのある場所は、子どもだけでなく、子育て中の親や地域の方も「ほっ」とできる居場所になると思います。

大事にすること 「見守る」

親は子どもをいつも守ってあげようと思っています。けがや危ないことから守ってあげようと思っ

ています。

自分のできること、なんでもやってあげようと、ついつい必要以上に口や手を出したくなることがあります。

でも、それを「ぐっ」とこらえて、ただ遠くから見守ることも大事かもしれません。

子どもの「できたっ！」ってよるこぶ瞬間を一緒に見ませんか。

どんなところ 「自由！」

子どもが自分のしたいことを、誰にも邪魔されずとことんできる場所です！

やぎ、ひつじ、いぬ、にわとりがいます。焚火や廃材や大工道具、ロープやがらくたが置いてあります。

遊具はないですが、子どもは、それを使って自分で遊びを見つけています。

沿革

平成 26 年 3 月 遊び場開始

平成 26 年 4 月 滋賀県社協より助成金をいただく

主な活動

遊び場の開催

月に 2 回、土日に 10:00～子どもたちがみな帰るまで遊び場を開催します。参加費無料、申し込み無料でお昼ご飯は自炊できる材料は準備しています。

親の了承がなくても参加できるように上記のような活動方法をとっています

ある日の活動風景

こどもたちは、自由に遊んでいます

印象深いエピソード

親の前と遊び場で親から離れた後での子どもたちの様子の違いです。どちらがその子らしいのかはわかりませんが、親から離れてやんちゃに遊んでいる姿が見られます。



共に生き、安心して暮らせる福祉のまちづくり

滋賀県

社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会

支援対象: 東近江市民

支援方法: 地域福祉活動、自治会単位の活動支援、在宅福祉活動(デイサービスセンターの運営、ホームヘルパーの派遣)、相談支援活動、判断能力の弱い方の金銭管理や生活支援

スタッフ数: 256 名

実施団体: 社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会

代表者: 会長 宮部 庄七



住所: 〒527-0016 滋賀県東近江市今崎町 21-1
TEL: 0748-20-0555 FAX: 0748-20-0535
e-mail: eomishakyo-honsyo@e-omi.ne.jp
URL: <http://www.higashiomi-shakyo.or.jp>

成り立ちと活動の全体像

子ども学習支援事業

「東近江市地域福祉活動計画」を策定するにあたり、市の生活保護のケースワーカーや地域包括支援センターに、聞き取りをした。そこで、複合的課題を抱える世帯の実態や貧困の連鎖の実態に触れ、生活困窮世帯の子どもへの学習の場や将来の自立に向けた支援の場の必要性を感じ「子どもの学習支援」事業をスタート。

平成 25 年 11 月より、生活困窮者自立促進支援モデル事業(東近江市委託事業)として実施。

市役所の自立相談支援事業で関わりが必要と判断した市内在住の生活保護または、生活困窮世帯の中学生、高校生を対象に実施。市内在住の大学生ボランティアを支援スタッフとして実施。

市に自立相談支援事業担当者、生活保護担当課、学校との連携により、世帯全体への支援や、子どもの置かれている状況や子ども自身の変化を共有し支援体制をつくっている。

市内の施設を利用し、2 会場で実施。各会場、週 1

回 18:00~20:00 に実施。

内容: 居場所づくりを最大の目的とし、学校の課題、テスト勉強、受験勉強など、また、社会性などを身に付ける場として、季節の行事(クリスマス会、卒業パーティーなど)を実施

居場所としての学習支援・・・

大学生ボランティアの強み(支援のスタイル)

大学生は、子どもたちに対して、何気ない会話から、まず仲良くなる。「勉強は、やりたい時にやったらいいよ」など促し方、子どもとの距離の縮め方が絶妙。みんなで一緒に勉強をしていくうち、子どもから「なんで勉強せなあかんの?」という問いが出てくるようになると、大学生が「なんのために高校に行くの?」「将来どういう風になりたい?」という話を子どもたちとする。子どもたちは、自然と自分の進路や思いを大学生に答えている。

大学生は、子どもたちと年齢が近く、身近なお兄さんお姉さんの存在として関わり、子どもの口

沿革

平成 17 年 2 月 法人登記（1 市 4 町の合併に伴い、社協も合併し東近江市社会福祉協議会となる）

平成 18 年 1 月 2 町との合併（能登川町社協、蒲生町社協との合併）

主な活動

地域福祉活動の推進

暮らしを支える取り組みの推進

- ・常設相談 ・地域福祉権利擁護事業 ・家計相談支援
- ・子どもの学習支援 ・社会福祉調査 ・生活支援サポーター養成、活動支援

経済的困窮等支援が必要な市民への生活支援

- ・生活福祉資金や小口貸付資金の貸付 ・緊急用食料給付

小地域福祉活動の支援

- ・見守り活動・サロン活動・防災マップづくり等の支援

ボランティア・当事者活動の支援

- ・活動調整・情報発信・助成 ・災害ボランティアセンターの整備と被災地支援の体制づくり ・障がい児サマーホリデーなどの実施

わが地域への想いが実感できる福祉教育の啓発

- ・福祉教育 ・住民福祉懇談会、中学生懇談会の開催

地域の福祉を支える人や団体の連携と活動支援（地区社協、民児協など）

在宅福祉活動の推進

高齢者福祉サービス

- ・居宅介護支援、訪問介護、通所介護、小規模多機能居宅介護など障がい福祉サービス

ールモデルとなっている。大学生が、子どもたちの気持ちに寄り添い、進路や将来の夢の話聞き、一緒に悩んでいるからこそ、子どもたちにとって学習支援は、大切にされていると感じることができる居場所になっている。

子どもたちの成長の場としての学習支援

学習支援の場では、家庭で学習する習慣がない子が多く学習面に課題が多い、また生活面でも課題がある子も多い。今まで家庭でご飯を作ってもらい食べるという習慣がない子もたくさんいる。年相応の生活感覚や社会性がなく学校でいじめられている子もいる。学習と併せて、一緒におにぎりを作って食べたり、クリスマス会でケーキを囲んだり、そうした関わりを続けながら徐々に基本的な生活習慣や社会性が身についていく。大学生ボランティアや職員の姿を見て、服装が変わったり、持ち物が変わっていく。また、何か月も学校に通っていなかった子が、学習支援に参加して、再び学校に通えるケースもある。そうした子どもの頑張りが、親にも伝わり、親自身も前向きに頑張れ

るようになるケースもある。

学習だけでなく、イベントや他の人との関わり、子どもたち同士の関わり合いの中で、子どもたちはどんどんと成長をしている。



若者の力が社会を創る

京都府

(公財)京都市ユースサービス協会

支援対象: 青少年活動センター:京都市内に在住、在学または通勤先のある13歳~30歳。若者サポートステーション:一定期間無業状態にある15歳~40歳。子ども若者総合相談窓口・子ども若者支援室:30代までと、その保護者

支援方法: 余暇活動の支援、学習支援、グループ活動の支援、個別相談など

スタッフ数: 57名(平成26年4月1日)



住所: 〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町
262 京都市中京青少年活動センター内
TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231
e-mail: office@ys-kyoto.org
URL: <http://www.ys-kyoto.org>

成り立ちと活動の全体像

京都市の出資及び民間青少年団体からのスタッフ派遣協力により、財団法人としてスタートした。青少年活動の拠点となる施設運営を中心としながら、その後、就労支援事業(若者サポートステーション事業)や子ども若者育成支援推進法に則した、支援事業の受託(指定支援機関としての指定)など、さまざまな困難さを抱えた若者への支援事業を平行して推進してきている。

経済的に困難さを抱えた若者への支援は、日常的な青少年活動センター運営においても意識して取り組まれているが、2010年から、京都市より中学3年生学習支援事業を受託することとなり、学習支援事業にも取り組み始め、現在市内9ヶ所で学習会を運営している。中3学習会は、市役所ケースワーカー有志で行っていた活動に、協会が協力を申し出て始められた。その後、正式にそれが市で事業化されて現在に至っている。

ある日の活動風景

週に1回、だいたい18時前後から始まる中3学習会に、学校の部活帰りや、時には学校に行っていない中学生がバラバラ集まってくる。

彼ら/彼女たちを迎えてくれるのは、大学生を中心としたボランティアスタッフたち。「おかえり」「今日はどうだった?」「何の勉強したい?」などの声かけからやりとりが始まり、中学生たちの様子を理解しあいます。

中学生たちも徐々に色々話し始め、気になる情報が入ると、ケースワーカーと情報交換をして中学生たちの置かれている背景を理解します。

学習会中は、それぞれの中学生の希望や、進度に合わせて勉強を好きになってもらえるように工夫しています。小学校の復習をしたり、英語のカルタを作ったり。時には、ボランティアスタッフと雑談して、笑顔の中学生もいます。

20時には学習会が終了し、ボランティアがドアまで見送り。その後は、ボランティアスタッフだけの「今日のふりかえり」をして、その時に感じた

沿革

- 昭和 63 年** 財団法人京都市ユースサービス協会設立
- 平成 13 年** 青年の家を青少年活動センターに名称変更（市内 7 箇所に設置）
- 平成 18 年** 京都若者サポートステーションを開設
- 平成 22 年** 子ども・若者総合相談窓口・支援室開設
- 平成 24 年** 公益財団法人に認定
- 平成 25 年** 子ども若者総合支援事業をひきこもり地域支援センターとして位置づけられる

主な活動

相談事業

子ども・若者総合相談窓口を設置し、30 代までの方とその保護者を対象にワンストップの無料電話相談。京都若者サポートステーションでは、就労にかかわる個別相談、保護者相談。各青少年活動センターでもユースワーカーが個別相談・グループ相談に対応。

地域参画・促進活動

地域社会のなかで若者が役割を担っていけるような活動を実施。
(例)まちづくりフェスタなど

居場所支援

各青少年活動センターで、ゆるやかに他者とかがかわれる場やプログラムを実施。(例)20 代話せるプログラム

講座・セミナー

年に 1 度、若者にかかわる「ユースシンポジウム」を開催。その他、若者の生き方や働き方を考える講座やセミナーを随時実施。

ことや気になること、中学生の成長を感じられる点などを共有しています。



印象深いエピソード

大学生ボランティアスタッフは中学生にどのように学習に向き合わせるか、勉強に向かうモチベーションをあげるために試行錯誤を繰り返していました。大量の宿題プリントを渡して、宿題をやってこないと落胆したり。しかし、「学校の宿題が多い」や「家では家事をしないといけない」など徐々に中学生の学校生活や家庭生活など背景を理解していくなかで中学生の等身大のニーズをつかみ、少しホッとできる場を作ろうと工夫をしたりと「勉強が好きになる」ように動けるようになってきました。

地域に住むすべての子どもたちが、心豊かに育つことをめざし、地域の社会環境・文化環境がより良くなる事を大きな目的に活動しています。

京都府

特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば

支援対象: 京都府山科区、伏見区醍醐地域の0歳から18歳の子どもとその家族

支援方法: 地域子育て支援、児童健全育成事業、子どもの貧困対策としての生活・学習・余暇支援

スタッフ数: 職員9名 ボランティア200名

実施団体: 特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば

代表者: 村井 琢哉



住所: 〒607-8085 京都市山科区竹鼻堂の前町18-1
TEL: 075-591-0877 FAX: 075-591-0877
e-mail: kodohiro@gmail.com
URL: <http://www.kodohiro.com/>

成り立ちと活動の全体像

設立から35年、地域のすべてのよりよい子どもの育ちの環境を豊かにすることを子どもも、家族も、地域も一緒になって取り組んでいます。これまで多くの体験活動、創造表現活動を集団で実施してきましたが、参加者のご家族から、「個別サポート」の声がありました。実際に活動のなかには、集団より個別での遊びや学び、なにより人と関わることをじっくりとする活動がされているのではないかと子どもたちがいました。そこを契機に子どもに個別に関わるサポート事業を実施しました。数年経過した段階で、活動に来ている子どものご家族からまた違った声がありました。それは「ひとり親家庭なので仕事も遅いので週に1日でも子どもと夜過ごしてくれる活動をしてほしい」「経済的にたくさんの活動に参加するのは難しいが子どものことを考えるとどうしても参加させたい。」といったものでした。ただ個別の努力でなんとかできるということもあるでしょうが、実際にはそのような声から話を聞いていくと、さらに各家庭の経済

的な事情が見えてきました。それぞれの家庭では非常に頑張っているのだけど、どうしてもうまくいかない。その皺寄せが子どもにいつてしまうことをなんとかしたくてという思いがあったの声だということでした。そのような声が集まってくるが増えてきたため、その声に応えていく事業を創っていきこうとはじまったのが子どもの貧困対策事業です。

家では、お兄ちゃんではないといけない。
(中学生ユウキくん)

ユウキくんは、中学2年生。学習支援の活動に夏休みから参加しています。

家族構成は、母親とユウキくん、小学生の弟2人、保育園に通う妹2人の5人兄弟で、ユウキくんは長男です。母親は仕事で忙しく、ユウキくんが兄弟の面倒をみることも少なくありません。野球部にも入っていますが、家族のことで休むこともしばしば。ある日、活動に来たユウキくんはとてもイライラしていました。

「しんどい。勉強なんてしたくない。もういやや。」

沿革

- 昭和 55 年 10 月 山科醍醐親と子の劇場として発足
- 平成 11 年 12 月 山科醍醐こどものひろばとして設立総会
- 平成 12 年 3 月 特定非営利活動法人の認証
- 平成 19 年 京都府地域子育てステーション事業「げんきスポット0-3」を開設
- 平成 21 年 2 月 「げんきスポット0-3」が「京都市子育て支援活動いきいきセンター事業へ
- 平成 22 年 7 月 「こども生活支援センター」を開設
- 平成 25 年 6 月 京都府「ひとり親家庭のこどもの居場所づくり事業」受託

主な活動

京都市子育て支援活動いきいきセンター事業（0歳から3歳の親子の自由来館スペースの運営）

こども生活支援センター事業（生活支援、学習支援、貧困対策）

子育て応援クラブ・サークル企画：「あそびっこクラブわくわく（未就園児）」「わんぱくクラブ（幼児～低学年）」「キャンプ（小学生）」「自由帳（若者と子どもの創作活動）」「創作劇（子どもと大人の表現ワークとそこから生まれる劇の公演）」「町たんけん（地域の文化や歴史にふれる）」

子育て応援者の学び活動「ママが楽しくなるワークショップ」「週一ボランティア勉強会もぐもぐ」

子ども個別サポート活動：「楽習サポートのびのび（こどもの学びや表現、楽しい生活への応援活動 子どもへの貧困対策事業含む）」

地域との連携活動：「こどもフェスタ（年1回主催 800名ほどの参加者）」「子どもの文化フォーラム（年1回）」、小学校との放課後支援連携事業 他

インターン生の受け入れや講師の派遣

他活動多数実施。

「どうしたん？」とサポーターが声をかけます。
「家でテレビ見てたら、妹にチャンネル変えられてな、怒ってん。俺が母親に怒られた。お兄ちゃんやから我慢しなさいって。俺は妹らのことで時間とられてるのに...何で我慢し続けなあかんの。」
普段は、いつも笑顔で勉強にも真面目に取り組み、ごはんの準備も率先して手伝ってくれるユウキくん。ようやく少しずつ本音を言えるようになっていきます。

優しくしてもらった。

だから優しい人になりたい。(小学生カエちゃん)

カエちゃんは小学6年生。生活支援の活動に、1年前の5年生のころから参加しています。自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手で、気に食わないことがあると・・・

「あっちいけ!裏切り者。」と言って、サポーターから離れてひとりになります。サポーターもどのように向き合っていくの悩みながら、“なぜ、カエちゃんは怒っているのか。”“カエちゃんは、どうしたいのか。”を常に大事にしながらかかわるよう

になりました。卒業式直前の活動で、「卒業式、言いたいことあるし来てな!」とサポーターたちに伝えます。カエちゃんの小学校の卒業式では、卒業証書を受け取った後に壇上で、これまでの感謝の気持ちや将来の夢を話します。「わたしは、たくさんの人に優しくしてもらった。だから、わたしも優しくなってみんなを笑顔にしたい。」ずっと関わってきたサポーターは涙を流して、カエちゃんの成長を喜びました。



子どもの貧困対策のモデル事業を作る 社会福祉士事務所

京都府

幸重社会福祉士事務所

支援対象: 乳幼児期～高校生年代

課題を抱える若者・その保護者

支援方法: 相談 / ネットワークによる夜の生活支援

スタッフ数: 5 名 (社会福祉士・精神保健福祉士・保育士)

実施団体: 幸重社会福祉士事務所

代表者: 幸重忠孝(ゆきしげ ただたか)



住所: 〒607-8082 京都市山科区竹鼻扇町 12-24
TEL: 070-5664-2424 FAX: 075-202-9290
e-mail: office@yukishige.jp
URL: <http://www.yukishige.jp>

成り立ちと活動の全体像

2010年に当時理事長をしていたNPO法人の山科醍醐こどものひろばに「こども生活支援センター」を立ち上げ、地域のボランティアによる子どもの貧困対策事業(夜の生活支援など)をはじめたが、ボランティア団体だけでは、子どもの守秘義務や個人情報保護の観点から学校や福祉など公的な関係機関と連携することが難しかった。そこで国家資格である社会福祉士の独立型社会福祉士事務所を地域にたちあげ、山科醍醐こどものひろばのような民間団体と学校や福祉などの公的な関係機関とをつなぐ役割を担った。

現在は隣接行政区である滋賀県(大津市)に、山科醍醐地域で成功した、子どもの貧困対策の取り組みを広めるモデルづくりに重点を置いている。

ある日の活動風景(トワイライトステイ)

夜、家でひとりで過ごしている子どもたち。学童保育へボランティアと職員が迎えに行く。寄り道

をしながら子どもたちは「ただいま」と元気な声で施設へ戻ってくる。マンツーマン体制の中、子どもたちは夕食まで好きなことをして過ごす。宿題をする子、外で大縄をしてくる子、粘土で遊んでいる子、台所で地域の主婦ボランティアが夕食づくりをはじめた。食材の野菜は地域の人からの差し入れ。ごはんづくりをはじめるとお手伝いに来る子もいる。夕食のいい匂い。まな板を叩く包丁の音。夕食ができあがり、みんなで食卓を囲んでの暖かいごはん。たわいもない会話をしながらの夕食タイム。夕食が終わった後のほっこりした時間。やがて終わりの時間が近づいてくる。小学生の子どもはボランティアが家まで送る。夜道を歩きながら子どもたちはポツリポツリと話をしてくれる。21時ごろに家につくが保護者は帰っていない。「また来週楽しみにしてるし!」暗い家に入っていく子どもを見送って施設へ戻るボランティア。戻りついたボランティアたちは社会福祉士によるスーパーヴィジョンを受け、子どもの成長を確認しあう。

沿革

- 平成 24 年 4 月 独立型社会福祉士事務所として設立
山科醍醐こどものひろばとの連携でトワイライトステイ実施
- 平成 26 年 5 月 内閣府子どもの貧困対策大綱の検討会にて代表が実践報告と提言を行う
- 平成 27 年 1 月 大津市社会福祉協議会より事業委託を受けて生活困窮者自立促進モデル事業の学習支援として大津市でトワイライトステイ実施

主な活動

地域ボランティアを活用したトワイライトステイ

夜一人で家で過ごしている子どもたちを 17 時から 21 時まで、地域のボランティアがマンツーマンで子どもに関わる生活支援・学習支援を行う活動。京都市山科区では山科醍醐こどものひろばと連携して実施、大津市では大津市社会福祉協議会や地域の NPO とネットワークを組んで実施。2015 年から滋賀の縁創造実践センターと連携してこの取り組みを滋賀県全域に広めることとなる。

講演・研修講師派遣

学校教職員、福祉関係者、地域住民などを対象にした講演会を年間約 30 件、専門家研修やスーパービジョンを年間 50 件ほど実施。子どもの貧困を考える動画や教材を開発。

ネットワーキングと社会発信

子どもの貧困に関わる団体や個人のネットワークづくりとマスコミなどと協同しての社会発信活動

支援のスタイル

子どもの貧困対策のモデルをつくり、それを広めることを目的としている。将来的にはこのような夜の居場所を子どもが通える範囲である中学校区に一つ開設（全国 1 万カ所）を目指している。そのためのノウハウを整理し、啓発活動と仲間づくりのためのネットワーク作りにつとめている。

また代表がスクールソーシャルワーカーである経験と立場を生かして、地域の民間活動と学校をつなぐスクールソーシャルワーカーの子どもの貧困支援モデルづくりにも取り組んでいる。

一番大事なことは、目の前の子ども一人ひとりにあわせたオーダーメイドプログラムの立案。だからこそ新たなモデル事業が次々と立ち上がっている。



全母協のスローガンを基に活動している 地域と共生、新たな歩み ~
母子に関するテーマ 「活かそう自立支援策 目指そう正規雇用」
母子・寡婦共通テーマ 「母子と寡婦 共に育む子どもの未来」

京都府

社会福祉法人
京都府母子寡婦福祉連合会

支援対象: 子どもの居場所づくり事業の実施による母子家庭の子ども及び母親を対象

支援方法: 子どもの学習支援(宿題、工作、英会話など)や子ども同士のふれあいの増進、母親への子育て、教育、しつけ相談や母親同士の交流による意見交換、母子会役員からの生活相談など指導や支援

スタッフ数: 16名 ある支会の支会長や役員、母子連絡員など(スタッフ数は固定していない)

実施団体: 社会福祉法人京都府母子寡婦福祉連合会
代表者: 会長 松浦治子

住所: 〒604-0823 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町
375 京都府立社会福祉会館(ハートピア京都)内
TEL: 075-223-1360 FAX: 075-950-1503
e-mail: kyotofu-boshiren@star.ocn.ne.jp
URL: <http://kyotofu-boshiren.sakura.ne.jp/>

成り立ちと活動の全体像

私ども連合会は、母子家庭、寡婦及び父子家庭に対する多様な日常生活支援福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として設立され、活動している。

また、自立を支援するため公益を目的とする福祉事業の調査、研究や企画及び実施を行っており、平成24年度にそれまで、親の就労支援の施策中心であったが、働く親の留守家庭でひとりぼっちを余儀なくされている子どもに向けた支援策として、1つの地域母子会が試みに夏休みひとり親学習塾の“居場所づくり”を立ち上げ、モデル事業を実施した。

平成25年度には、京都府が補助事業として助成支援を制度化され、現在、府内の多くの地域母子会で事業に取り組んでいる。

学習支援について

英語: 子ども・親共に成績重視のことから目新しい取り組み。誰よりも正しい発言や、早く自信の持てる学習に取り組めたらと、市教育委員会に外国人教師の派遣を依頼。実績を上げる。

野外活動: とてつもなく広い芝生の公園を場所いっぱいを使うことを試みる。オリエンティリングの初歩、指導者・スタッフと共に絵地図に従って場所の様子を調べる。初体験ながら、暑いさなかを楽しく活動出来た。

紙飛行機作り: 低学年も折り紙の本を見ながら、自分なりの工夫を凝らし、より遠くへ飛ばようと頑張って創れた。屋外では風が強く吹き、紙質の選び方を考えさせられた。

寺田イモの学習: 嶋利兵衛さんの話を、パソコンで紙芝居風に、作者が役者に成りきってお話して頂きました。(芋づるで栽培し、飢饉を救った話)

沿革

- 昭和 25 年 9 月 京都府未亡人会設立
昭和 48 年 京都府母子寡婦福祉
連合会に名称変更
平成 4 年 3 月 法人認可
平成 24 年 子どもの居場所づく
り事業を 1 支会でモデ
ル実施（自費）
平成 25 年 京都府が補助事業を
創設
平成 26 年 休日等通年型（年間 50
日程度）2 支会、
夏休み等短期型（年間
15 日程度）9 支会実施

主な活動

自主事業

- 府母子寡婦福祉大会
広報活動・・・機関紙「道しるべ」の発行、ホームページの運用

補助事業

- 指導者研修会・・・連合会・支会・母子部の役員等を対象としたリー
ダー研修
ひとり親家庭いきいきふれあい事業・・・各支会において、ひとり親
家庭の親子を対象に、寡婦の支援の下にレクリエーション・交流会を
実施
ひとり親家庭こどもの居場所づくり事業・・・夏休み期間等に 15 日
間程度の短期型と、土日を中心に年間 50 日程度の通年型に拡充し実
施

受託事業

- 母子家庭等日常生活支援事業
ひとり親家庭自立支援センター事業
知事と新入学児童等のつどい・・・次年度に小学入学を迎えるひとり
親家庭の児童及びその家族と知事との交流会

ピークボール： 京都新聞掲載記事で知り、学習教材に載せ、広い公園を有効に使う、自分で制作したピークボールでゴルフ遊びをすることを考案した。

動公園等交通の不便な所での学習では、自主的に車の同乗をし、解散後も子ども同士、親同士の交流が出来た。

交流について

他団体 観光協会： イルミネーション作りの協力、母子会活動理解と協力。

役員・母子・寡婦の交流： 理解が深まり、会員相互の結びつきが強くなる。学習会参加者、特に調理実習では、実習中、会食中、会話が弾み、打ち解け合うグループが出来た。

木津川公園園長・職員： 母子会学習塾応援 スポー
ツリーダーの方とも交流出来ることになりました。

凧作りの指導者グループ： 凧作り参加・協力から、
学習塾指導と教材提供

母子部会交流： 第 1 期末の調理実習や寺田イモ
の調理実習では、母子部員で調理に堪能な者が中
心に、母子部で助手をかって出してくれた。自立し
た母子部活動が出来た。

親同士の良い交流： 木津川運動公園や鴻ノ巣運

くらしと仕事の相談窓口りんごの広場

京都府

特定非営利活動法人まごころ くらしと仕事のサポートステーション 「りんごの広場」

支援対象: 長期間無職の方、母子、ニート・ひきこもり等
支援方法: 相談、訪問支援、社会的居場所、心理・キャリア等専門相談、中間就労、家族支援、各種セミナー

スタッフ数: 7名

実施団体: 特定非営利活動法人まごころ

代表者: 藤 大慶



住所: 〒620-0056 福知山市厚中町中村 4-2
TEL: 0773-23-1741 FAX: 0773-23-1741
e-mail: ringo@ayabe-magokoro.net
URL: <https://ja-jp.facebook.com/Ringonohiroba>

成り立ちと活動の全体像

リーマンショック以降、一時的な救済を目的に生活保護の要件が緩和され、稼働年齢層の生活保護受給者が増えたが、不況が長引く現況で仕事に就けず、働く意味、働く価値を見失い、孤立化・孤独化に繋がっている。同時に貧困の連鎖も起こり、虐待や育児放棄等、罪のない子ども達への影響も起きている。誕生から稼働年齢層に至るまでの継続的な支援が少なく、貧困状態は、人によって様々な事情が複雑に絡み合っており、経済的な困窮のみならず、心身の健康状態の喪失、社会との関わりの薄さなど、数多くの困難な問題を生み出している。

この状況は将来にわたって社会的コストを上昇させる原因となる。これには利用者の主体性を尊重しながら、利用者自身が様々な生活課題を解決出来る切れ目ないサポート体制が必要で、地域の中で経済給付や対人サービスを受けながら自己選択・自己決定に基づく、生活を含む「自律」を促進する事により、意欲や笑顔が生まれるのではない

かと考え、社会的居場所を開設。専門相談や訪問支援、各種セミナーを通して、日常生活や社会生活の自律を支援しています。

こころのワーク

グループワークを通じて自己表現を行い、他者の発見・自分自身の発見をする。受け入れられた感覚を抱く経験を積み重ねることにより、自己肯定感を高める。

簡単なゲームやおしゃべりをしながら自分を発見していく。

質問が自然に飛び交い、フランクな会話が発生する場になる一方で、沈黙や間をつくり、抱えるということが相当に苦手な参加者もあり、会話が発表している本人の内容から焦点がずれていくことも多く、話している人を尊重する、という雰囲気を整えることが難しいところもある。各メンバーの性格・発達・情緒など多くのファクターが複雑に絡み、相手という存在に真に向き合うということ(=自分とも向き合うということになる)を、集団の中で行えるようになるには相当の関係性の

沿革

- 平成 20 年 2 月 NPO 法人発足
- 平成 21 年 4 月 京都府より初期型ひきこもり訪問応援チーム地域推進事業を受託
- 平成 23 年 9 月 京都府より日常生活等自立支援事業サポート推進事業を受託。くらしと仕事のサポートステーション「りんごの広場」開設
- 平成 24 年 4 月 厚生労働省より地域若者サポートステーション事業を受託。宇治(京都南)若者サポートステーション開設。

主な活動

社会的居場所

就労を希望するが結びつかない人、就労意欲を失い社会から孤立している人が社会とのつながりを結び直せるよう「社会的居場所」をつくり、支援対象者の側に立った「寄り添い型」支援を行います。居場所では、清掃、調理、事務作業を役割分担し、対象者が自己効力間、スキルを高めます。

相談

専門相談員がゆっくり、じっくりお話を聴かせていただきます。仕事の事、友達の事、家族の事など、個々の悩みに応じて一緒に考えます。

訪問支援

個々の状況に応じた橋渡しができるようご家庭を訪問し、居場所利用へと繋がります。

各種セミナー

個々に応じた就労体験、ボランティア体験、農業体験などの取り組みを行うことで社会性を取戻し、就労意欲を喚起します。

成熟が必要になってくる。1時間程度のミニワークにおいても、振り返りの時間を丁寧にとって進めています。



コミュニケーションが苦手な若者たちが、クスクス笑いながらコミュニケーションを取れていたのが何よりも良いと感じます。

音でコミュニケーションするとき何が難しいかという話を皆でしたときに、「発信する」時だけでなく、「受け取る」時の難しさを参加者が話してくれました。コミュニケーションが苦手だけれど、でも何が苦手なのかよくわからないでいた他のメンバーにとっても、「ああ、こういうことだったのか」と自己理解する助けになっているのではないのでしょうか。

音楽コミュニケーション

他者との言葉での直接的なやり取りが苦手な人でも音でなら割合楽にコミュニケーションをとることができている。楽器を使って人とのコミュニケーションに慣れていくためのセミナーとなっています。

最初は、恥ずかしそうに笑みを浮かべたりしながらも、音楽につられてなんとかできていた。コミ



食を通じたコミュニティ！！

つながり広場「Reos(リオス)檜島」

京都府

一般社団法人マキシマネットワーク コミュニティカフェ Reos 檜島

支援対象: ひとり親家庭の母・乳幼児・小学生
その他地域住民

支援方法: 就労体験と就労支援及びこどもの居場所

スタッフ数: 15名

実施団体: 一般社団法人マキシマネットワーク

代表者: 林 義彦



住所: 〒611-0041 京都府宇治市檜島町十一 173 番地の 1
サンジェルマン 1F
TEL: 0774-66-1849 FAX: 0774-66-1948
e-mail: info@reos-makishima.com
URL: <http://www.reos-makishima.com>

女性の味方！地域の味方！

近年、人と人の交流の希薄さが問題とされており、治安・環境悪化・交通困難・高齢者問題・子育ての孤立や世代間格差といった様々な地域課題につながっています。

地域の課題は地域が一番よくわかっており、その課題解決を全て国や自治体任せにするのではなく、私たちは「地域の課題は地域で解決」をスローガンに地域が主体となり国や自治体や関係団体とも連携し課題解決に取り組む事を目標にスタートしました。

このカフェの特徴は、地産地消を目指し自ら野菜作りにも取り組んでおり、安心した食材を使った料理を提供しています。そして、キッズコーナーを設けておりますので親子連れのランチがたいへん好評です。

そして、最大の特徴は、運営方針です。このカフェは、「子育て中など時間制限がある女性でも無理なく働ける場所」としてスタート。メニュー 決めや価格設定、調理や接客など全てスタッフや利用

者から意見や知恵を出してもらい運営しています。スタッフのほとんどが子育て中の母親なのです。子どもが学校へ行っている間だけでも「社会とつながり、少しでも地域に貢献出来る場所」そして「何より自分自身が輝ける場所」です。こうしたスタッフが、居場所の提供や配食サービスも手掛け、地域に根ざす拠点として活動しています。

京都府委託事業「ひとり親家庭の母の就労支援」

このような子育て中の母親スタッフが運営するカフェで、平成 25 年度より京都府からの委託を請け、「ひとり親家庭の母の就労支援事業」に取り組んでいます。就労経験が乏しいひとり親家庭の母親を対象に、カフェで就労体験をしてもらい、調理補助の仕事やホールでの接客を通じ、就労のいろはやビジネスマナー等を身に付けてもらい、就労につながるよう、中間就労支援の場として取り組んでいます。

沿革

- 平成 23 年 9 月 一般社団法人マキシマネットワーク設立
- 平成 23 年 11 月 京都府地域力再生プロジェクト支援事業の交付金を受け、地域交流拠点「コミュニティカフェ Reos 槇島」を開設
- 平成 24 年 11 月 京都府地域力再生プロジェクト支援事業のソーシャル・ビジネス枠交付金を受け、コミュニティ配食サービスをスタート
- 平成 25 年 7 月 京都府委託事業「ひとり親家庭の母の就労支援事業」スタート

主な活動

地域交流型カフェ・レストラン

子育て環境を再構築し、子育て世代から高齢者に至るまで、食を通じたコミュニティ促進活動

中間就労支援

子育て中の母親が子育て期でも無理なく働ける場所を提供するとともに、ひとり親家庭の母の就労体験からの就労支援を実施

居場所支援

地域が主体となり、実践的な活動を通じて「親子」「男性」「団塊世代」「高齢者」の居場所の提供と支援

- ・宇治市主催「初期認知症カフェ（れもんカフェ）」会場
- ・京都文教大学 COC 事業連携「地域と結び付く親と子の絆づくり、子どもへの学習支援」
- ・特定非営利法人ましましあひの会運営「地域子育て支援拠点出張ひろば」会場



信じる 待つ 愛する 子どもは育つ

京都府

認定特定非営利活動法人 夢街道国際交流子ども館

支援対象: 生活保護家庭(中学生)学習支援 ひとり親
支援(小学生)

支援方法: 週2回 2時間 週1回 3.5時間

スタッフ数: 15名(学習支援をしているスタッフを含む)

実施団体: 認定特定非営利活動法人
夢街道国際交流子ども館

代表者: 理事長 比嘉 昇



住所: 〒619-1152 京都府木津川市加茂町里新戸 114
TEL: 0774-76-0129 FAX: 0774-76-0129
e-mail: info@yumekaido-kodomokan.org
URL: <https://ja-jp.facebook.com/Ringonohiroba>

成り立ちと活動の全体像

10 有余年、フリースクールの運営を続けている中で、私たちが意識していなかった問題の1つが、子どもたちを取り巻く「貧困」の状況についてだった。そんな折り、京都府が「貧困の連鎖を断つ」ことを眼目とした「生活困窮者支援」の一環として、「子どもの居場所作り事業」、中学生への学習支援があることを知った。私たちの実践を生かして、この事業の一端を担うことができると願って意思表示をしたことが始まりであった。京都府南部の地理的な状況を踏まえて、子ども館の他にも、交通の便の良い駅周辺にと考えてサテライトを設け、二か所でこの事業に取り組んで四年目を迎えました。そのことの影響の大きさは、経済的な理由から「塾」に通うことができなかった子どもたちがその殆どが希望していた高校に入学しているという事実が何よりも雄弁に物語っていることである。

私たちの願っているもの(自学自習こそ)

学びのスタイルは無数にあるだろう。従って「これだ!」と一概に決めつけることは不可能である。しかし、何れの方法であれ「自学自習」こそ、総てに共通する基本であることは請合いだ。何故ならば、各自が抱えている課題を突破する必要条件は、個別な時を要するからである。異なる切り口から考えるならば、その課題を解決することによって次へ進むことの心地良さと一種の感動体験を幾つも経てきていることを内包しているのだから。加えてこの事業の最大の利点は「マンツーマン」に近い形で指導者が就いていることは、教室での一斉授業とは比較すべくもない。課題も進度も他者との比較、競争ではなく自分自身の納得づくの「学び」である。解らない時はすぐに指導者に問うことが可能であり、その場で解決が可能ということは、即、安心と意欲につながるものである。週二回という限界はあっても、学習の習慣とコツを会得できることは、それに留まるものではないことは、過去の事実からしても自負できることである。

沿革

平成 13 年 12 月 NPO 法人 取得

平成 14 年 4 月 フリースクール(不登校生)開校

平成 18 年 4 月 フリースクール連携推進事業(京都府教育委員会)

平成 23 年 10 月 子どもの居場所(貧困の連鎖を断つ)京都府補助事業

平成 27 年 2 月 認定 NPO 法人として承認

主な活動

フリースクール

子育て

子どものためのお話会

フェスティバル(夢の樹祭、コンサートや演劇等)

中国語講座



頭良くなりたいなあ(印象深いエピソード)

学び続けるという環境にはほど遠い条件のなかで、毎日暮らしている子どもたちにとって「努力の積み重ね」こそが、自分の前途を切り開くことだという展望を持つことは不可能(この年齢では)に近いほどの難題である。しかも学校に行けば、自分とは全く異なる状況の中で落ちついて学習に向かう友だちが大半な中で、自分をさらけ出すということは、思春期の中学生たちにとっては屈辱以外の何物でもない。学びたいという想いは同等にあっても、それを素直に出すことができない苛立

ちは、「荒れ」となって表出する。それも度が過ぎれば先生たちのプライドが許さないとすれば学びから「遁走」だ。学校を自主休学した日でも彼らはこの「学び」の場には必ず来る「あぁっお腹すいた」「なんでそんなにどろんこなん?」「田んぼにはまったから」「もう疲れました。今日は元気出ません」「二人とも勉強頑張れ。この前合格した兄ちゃんみたいに行きたい高校に行ける」「あれは偶然や」「違う、兄ちゃんががんばったからやる」うつむいたままで二人は言った。「頭良くなりたいなあ」「うん、賢くなりたい」中学生、思春期真ただ中の子どもたちは裏腹に表現することを、一つの真実として受け容れる心持ちを忘れず持っていたい。



親と暮らせない子どもたちの社会的、経済的、文化的排除を改善するために、デザインを通して学習支援・学資支援・養育支援をすることで、子どもたちの将来を企画・設計(デザイン)する力=自立心を育てる

大阪府

特定非営利活動法人 子どもデザイン教室

支援対象: 児童養護施設・里親委託で暮らす子どもたち

支援方法: 親と暮らせない子どもたちへの学習支援・資金支援・生活支援

スタッフ数: 常勤 2 名・ボランティア 8 名

実施団体: 特定非営利活動法人子どもデザイン教室

代表者: 和田隆博



住所: 〒546-0035 大阪市東住吉区山坂 4-5-1
TEL: 06-6698-4351 FAX: 06-6698-4352
e-mail: info@c0d0e.com
URL: <http://www.c0d0e.com>

成り立ちと活動の全体像

代表理事の和田は、高校などでデザイン教育に携わる中で、デザイン教育の有効性と、児童虐待・育児放棄、貧困問題の解決にデザインを活かしたいと考え、子どもたちの「自らの将来を企画・設計(デザイン)する力=自立心」を育て、15~18歳の措置解除後に直面する「貧困・不良就労などの社会的排除の問題」を改善するため、児童養護施設の子どもたちにデザインを通して支援する団体を設立した。

学習支援プログラム

児童養護施設では、虐待や育児放棄を受けた子どもたちが増加しており、親と暮らせない苦しさに加え、辛い経験の影響で心理的に不安定になり、基礎的な生活力が乏しく、学力も十分ではない子どもたちが多い。こうした子どもたちは、施設卒業後は、不安定就労を余儀なくされる場合も多く、社会全体の理解と様々な支援が不可欠であ

る。

26年度は、児童養護施設の子どもたちに対して、無料で、毎週土曜日、絵本や人形などの商品を企画・製造し、宣伝・販売する方法を学ぶ年間通したプログラムを、また、毎月第3土曜日は、ゆるキャラをつくるレッスンを提供している。こうした作品の活用を、企業や団体に働きかけ、子どもたちの学資支援を行っている。さらに、年間のプログラムは、一般の子どもたち対象に別途実施しており、地域全体の子ども育成にも努めている。当初は地元の施設が主であったが、現在では大阪府全体の施設に広がり、26年度は、113回延べ347名の児童養護施設の子どもたちにレッスンを実施。一般の子どもたち対象は、延べ259名。子どもの作成したキャラクターを使用する企業は、24年度以降8社となり、地元の有名企業の協力も得られるようになった。また、子どもたちの作品は、コンテストで入賞するなど、高い評価を得ている。何より、子どもたちが、自信と元気を得て輝き、積極的になった姿が一番の成果である。

沿革

- 平成 19 年 4 月 子どもデザイン教室を設立する。
- 平成 22 年 2 月 子どもデザイン教室を NPO 法人化する。
- 平成 23 年 12 月 養育里親事業を開始。
- 平成 24 年 4 月 賛助会員が 170 人を越える。
映画『隣(とな)る人』上映会を開催する。
大阪市 CB・CSO アワード 2012 で特別賞を受賞
- 平成 24～25 年 テレビ、新聞などで数多く紹介される。
- 平成 27 年 2 月 映画『隣(とな)る人』上映会を開催する。
未来を強くする子育てプロジェクト文部科学大臣賞を受賞

主な活動

当法人は、児童養護施設・里親委託の子どもたちに、イラストなどを作成しながら学習効果を高めるプログラムを無料で提供し、自信や自尊心の獲得、学力やコンピューター技能、想像力と自立力の育成を図っている。

また、子どもたちの作品を商品化し、企業・団体に販売し、その収益金の一部を子どもたちの銀行口座に直接預金し、学資支援を行っている。このように、デザインを通じた学習支援と、経済システムを活用した子どもたちの学資支援に特徴がある。

26 年度は、児童養護施設の子どもたちに対して、無料で、毎週土曜日、絵本や人形などの商品を企画・製造し、宣伝・販売する方法を学ぶ年間通したプログラムを、また、毎月第 3 土曜日は、ゆるキャラをつくるレッスンを提供している。

こうした作品の活用を、企業や団体に働きかけ、子どもたちの学資支援を行っている。

さらに、年間のプログラムは、一般の子どもたち対象に別途実施しており、地域全体の子ども育成にも努めている。

こどキャラプロジェクト

概要 児童養護問題はまだまだ社会の認知度の低い問題です。そこで概ね 18 歳で自立する子どもたちの新しい支援システムを提唱するため、講演会・展示会・SNS での広報・営業活動をしました。さらに「こどキャラ」の受注・制作をすることで、児童養護問題を社会に啓発し、親と暮らせない子どもたちの生活資金供給システムの運営を実施しました。

内容

04 月=大阪ガス

05 月=はぐくむ

06 月=そば処 山久

08 月=甲南埠頭

10 月=大阪勧業展 2013 に出展

成果

社会の賛同が広がり、生活資金供給システムが動き始めました。

受注 97.2 万円



どんな子どもにも、24時間365日、 無料で食事、衣服、宿を提供します

大阪府

コンテナハウス子ども館 (旧愛の家)

支援対象: 貧困児童、被虐待児童(その友人の一般児童含む)

支援方法: 24時間365日、上記の児童がかけ込んだ場合、無料で食事、おかし、衣服、宿を提供しています。ポケットマネーにて。

スタッフ数: 3名

実施団体: コンテナハウス子ども館(旧愛の家)

代表者: 山本 いづみ

住所: 〒570-0079 大阪府守口市金下町1-9-13、1-9-14

TEL: 090-3273-9555 FAX: 06-6996-4307

e-mail: marryjhon@softbank.ne.jp

成り立ちと活動の全体像

当教会の前を歩いている子供たちの中で、やせている子供、服の汚れている子供等に、バナナ等をあげてみた。彼らにきくと、やはりごはんを給食しか食べていなかったもので、2段階目として、バナナではなく、ちゃんとした食事やおかしを用意したら、住む子供まで現れ、子供に喜ばれたのが始まり。

ある日の活動風景

夜、子どもの泣き声と、戸をたたきつづける音が聞こえたため現地に行くと、子どもがマンションドア外に出されていた。通報して行政から人が来て対応するも、翌日も続くので、外に出されていた子どもに声をかけると、一度出されると、カギを中からかけられ、朝まで開けてはもらえないとのこと。季節も11月で、冬の寒さ。ベルを押しても家人が出てこないため、一晩の寝床を貸し、食事を与えた。朝には、学校があるので、家まで送り届けた。事情を聞くと、毎日、昼の給食しか食べていないとの事。その後、夕・朝食を食べにきている。

沿革

- 平成 18 年 9 月 山本いづみが、道に寝ていた子どもの世話を始める。
- 平成 19 年 1 月 大阪泉キリスト教会の代表者になる。
- 平成 20 年 4 月 道ゆく子どもたちに、バナナを与え始める。
- 平成 23 年 1 月 バナナを与えていた子どもたちに、お菓子を与え始める。私費で学費を支給開始。
- 平成 24 年 1 月 バナナ、お菓子を与えていた子どもたちに、食事を与え始める。
- 平成 24 年 8 月 帰れない深い事情の子どもたちに宿を提供開始。
- 平成 25 年 1 月 フードバンクの利用を開始。子ども服を提供開始。
- 平成 26 年 5 月 テレビ取材開始。
- 平成 27 年 1 月 コンテナハウスが手狭になったため、隣接の土地を購入。(人数に応じ持ち物件を活用し対応中。)

主な活動

どこにもない、思春期前(0~18才)の小さな子どもも受け入れるかけこみ寺(シェルター)

単発なら、食事1食~短期~長期に至るまで、困っている子どもを受け入れ養育します。

子どもからはお金をとらないで、貧困の子にも、普通の子と同じ体験をさせる。

無料で与えるもの

食事、おかし・旅行・キャンプ・宿・遠足・衣服・外国語・勉強塾・音楽塾・スポーツ教室

参観日、卒業式、運動会など、父兄のかわりに出席する。

具体的な活動の様子

兄弟姉妹が、いつも来て遊び、食べて泊まってくが(母親はうつ病で働けないという)いつも、真冬にくつ下もはかず、くつも底がぬけたり、やぶれて指が出ていたりしたまま。個人運営なので、子ども服や、くつ、学用品を有志の方をつのり、集め回るのに、車を買ひ、寄附を下さるといふ人がいれば近畿圏内ならどこでも受け取りに走った。各府県に1ヶ所、中心的な支援者宅をセンターにして、物品が集まれば、引取りに行き、それを使って、子どもたちのやぶれた服やくつを、当方で着替えさせた上で子どもを家に帰すようにしている。

すべての若者が 自分らしく自由な 生き方・働き方を実現できる社会の創造に向けて

大阪府

一般社団法人キャリアブリッジ

支援対象: 高校生・高校世代の若者

支援方法: 居場所、学習支援、就職・進路支援

スタッフ数: 20 名

実施団体: 一般社団法人キャリアブリッジ

代表者: 廣水 乃生



住所: 〒561-0858 大阪府豊中市服部西町 4-13-1
豊中市立青年の家いぶき 3 階
TEL: 06-6151-2244 FAX: 06-4866-5645
e-mail: info@career-bridge.net
URL: http://career-bridge.info/

成り立ちと活動の全体像

職業教育の企画・開発、ニート・ひきこもり状態にある若者の自立・就職支援事業を手がけていたメンバーによって 2007 年活動開始、2012 年法人設立。

2011 年より従事する豊中市パーソナルサポートセンター（生活困窮者自立支援モデル事業）の支援現場では、家族全員が何らかの問題を抱えていた、相談者の子どもが長期ひきこもり状態で家族が支えきれなくなったなど、子ども・若者を取り巻く課題の多様化、深刻化する貧困の現実に直面しました。多重の困難を抱えた若者との出会いの中で、成人期以前・就労以前の学齢期段階からの適切なケア・支援を行う必要性を痛感。2012 年に地域の定時制高校と連携し、高校内に居場所・相談室事業を立ち上げました。

2014～2015 年度の主な事業は下記の通り。

くらし再建パーソナルサポートセンター@いぶき：生活困窮者自立支援事業・専門家チームによる相談支援

とよなか若者サポートステーション：15～39 歳までの方を対象とした就職支援

豊中市「若者支援相談窓口」：15～39 歳までの方を対象とした「ひきこもり」等に関する相談

高校内居場所事業：定時制高校と連携し、居場所運営を通じて生徒の学校生活・進路選択を応援

その他セミナー、講演、事業企画、スーパーバイズ、出張相談、カウンセリング事業等

活動紹介

定時制高校内の居場所事業は、学校・教員の方々との連携のもと、通学や授業への定着が難しい生徒や、発達上の課題を抱えていたり、厳しい家庭環境にある生徒へのサポートを目的に活動しています。

小・中学校段階で不登校・ひきこもり経験のある生徒も多く、居場所を利用することでエネルギーをためて教室に入れるようになった、友人や家族の問題をスタッフに相談することで人間関係が安定してきたという生徒もいます。

沿革

- 平成 19 年 4 月 任意団体として活動開始
- 平成 24 年 1 月 一般社団法人設立
- 平成 24 年 4 月 高校連携事業開始
- 平成 25 年 4 月 暮らし再建パーソナルサポートセンター事業受託・開設
とよなか若者サポートステーション認定団体として事業開始
- 平成 26 年 5 月 豊中市「若者支援相談窓口」事業受託・開設

主な活動

相談・支援機関紹介

15～39歳の若者（豊中市在住・在学・在勤）とその家族・支援者を対象に相談・支援機関紹介・情報提供を実施。

就労準備支援・生活訓練

就労を目指す若者を対象に、生活リズムや体力の調整、作業適性の確認、コミュニケーション等のトレーニングを行うプログラムを実施。

居場所・サークル活動

アート・料理・音楽・ヨガなどのサークル活動を実施。仲間に出会える場所、疲れた時にも元気を貯められる場所として居場所併設。

講座・セミナー等

就活・仕事系（応募書類、面接、ビジネスマナー等）、コミュニケーション系、メンタルヘルス・ボディワーク系、職業適性検査など課題・ニーズに対応した各種プログラムを実施。

またアルバイトを希望する生徒への応募活動サポートや、卒業年次生徒の就職支援も行っています。



居場所ではゲームや雑談を通してスタッフと信頼関係を築き、悩みや困り事を安心して話せる環境をつくっています。

わたしたちのミッション

一人ひとりの若者に寄り添い、その方に合った自分らしい生き方を応援すること。特に就職支援の分野での実績は私たちの強みです。仕事や働くことを通じて若者が希望を持ち、社会の中でいきいきと生活を送るためのサポートを目指しています。

しかし若者の課題は単に就職できれば解決するわけではありません。支援現場では、自己肯定感の希薄さ、他者との信頼関係が築きにくいなど、社会生活を送る上での困難を抱えた若者に多く出会ってきました。

このような現場の経験から、生活訓練事業、サークル活動、野外活動などを実施。就職活動前に健康・生活面を整えたり、グループ活動やイベント参加による達成感、チームワークや継続的な人間関係を構築する機会などをつくってきました。また地域社会資源との連携・ネットワークを大切に、行政・支援機関・団体・企業などと顔の見える信頼関係をつむぐことにも力を入れています。私たちが会おう子どもや若者たちが、地域で就職したり活躍の場につながることで、ひいては元気な地域づくりに結びつくように、セクターの枠を超えてチームで子ども・若者支援に取り組む環境づくりにも取り組んでいます。

「であい・つながり・げんき」を求め 誰もが安心して暮らせるまちをつくる！

大阪府

特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝

支援対象: 貧困状態にある子ども・若者 他

支援方法: 長期休みの昼食支援、夜の生活サポート、社会体験の充実、学習支援、地域通貨まーぶを活用した自己実現サポート他

スタッフ数: 32名(注: 貧困状態にある子ども・若者に関わるスタッフは8名)

実施団体: 特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝
代表者: 埋橋 伸夫



住所: 〒562-0014 大阪府箕面市萱野 2-11-4 芝樂 2F
TEL: 072-720-6630 FAX: 072-720-6623
e-mail: kurashizukuri@hcn.zaq.ne.jp
URL: <http://www.kitashiba.org/>

成り立ちと活動の全体像

当法人が活動拠点を置く箕面市萱野には、貧困課題が地域内に集積していた経過がある。生活環境の改善、教育保障が取り組まれ、ある一定貧困率は下がったが、現在は、市営住宅への低所得世帯の流入や、貧困の連鎖による子育ての方法がわからないことによるネグレクト傾向など、地域としての貧困課題は未だ解決されていない。特に、2010年以降、箕面市立萱野中央人権文化センター（以下、らいとぴあ21）の指定管理受託以降、夢や希望をもっていない子どもの姿や、長期休み中のお昼ごはんがないといった子どもの姿を目の当たりにし、貧困状態にあったり、貧困の連鎖の渦中にある子どもを対象とした事業として、生活サポート、社会体験の充実、学習支援に取り組んでいる。その他、生活困窮者支援も行い、子どもだけでなく、親のサポート等にも力をいれている。

長期休みのお昼ごはんはぴあぴあ食堂で！

小学生のAさんは、家庭の経済的困窮から夏休みのお昼ごはんを作ってもらえず、大人の前では「もう食べた」「いらない」と言っている状態でした。そこで、らいとぴあ21で取り組まれている、こどもであれば100まーぶでお昼ごはんが食べられる「ぴあぴあ食堂」を紹介すると、自ら稼いだまーぶ（当法人が発行している地域通貨）で友だちとお昼ごはんを食べようになりました。また、保護者がまーぶを購入し、お昼ごはん代としてAさんに渡すようにもなり、Aさんの精神状態も安定していくことにもつながりました。

ぴあぴあ食堂とは...

らいとぴあ21で取り組んでいる、長期休みの給食事業。もともと、土曜日や長期休みになると、お昼ごはんを持ってこない、準備してもらえない子どもが複数見られたことから始まった。地域内の元給食調理員のおばちゃんや保護者などが日替わりで調理に携わり、子どもは300円か100まーぶ

沿革

- 平成 13 年 6 月 NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝設立
- 平成 16 年 7 月 地域内遊休地に事務所およびコミュニティカフェをオープン
- 平成 17 年 4 月 地域内事業コンペティションを実施
- 平成 19 年 4 月 子育て・教育支援施策調査研究をスタート
- 平成 22 年 4 月 箕面市立萱野中央人権文化センター指定管理受託
- 平成 23 年 5 月 内閣府パーソナル・サポート・サービスモデル事業受託
- 平成 25 年 10 月 放課後等デイサービス事業スタート
- 平成 26 年 4 月 生活困窮者自立促進支援モデル事業受託

主な活動

居場所づくり・生活サポート事業

子どもから高齢者まで、多様な人々が多様に過ごせる場所を数箇所運営。特に子ども・若者については、年代や属性に応じて、平日昼間から夜間にかけて、場の開放を断続的におこなっている。その場を使って、給食の提供や生活スキルの獲得をめざす事業も展開。

社会体験・社会参加の充実

おでかけやボランティア活動などを中心に、子ども自身の未来のためになることや、誰かのためになる活動を、地域通貨「まーぶ」を活用して実施。

学びの場づくり

子どもから高齢者まで、すべての年代の人々が学びたいときに学びたいものを学べる環境づくりをおこなっている。子ども世代には学習支援の場、大人世代には学び直しや生活が豊かになる学びの場、高齢世代には識字教室を展開。

困り感のある人たちへの伴走型支援

総合生活相談、人権相談、教育相談、就労相談等の相談窓口を設置。困り感を伴走型でサポート。

(地域通貨の単位) 大人は 500 円(まーぶ)で食べることができる。平均 30 食/日を提供している。



地域通貨まーぶを稼ぎ、使って自己実現!

地域通貨「まーぶ」は、箕面市で流通している子どもも大人も使える地域通貨です。「まなぶ」と「あそぶ」を掛け合わせて考えられた「まーぶ」は、どんな状況にある子どもでも自分の力で「だれかのためになること」「自分の未来のためになること」をすれば稼ぐことができることが特徴です。100 まーぶ = 100 円として、お店で使うことはもちろん貯めることで、自分の夢をかなえることもできます。

いま生まれてくる子どもたちは、生まれてきたときからすでに格差の中にあり、将来の選択肢にもとても差がある状態です。このような状態にあきらめ感を抱かせず、自分の力や周りの力を信じることができるようにすることが、「まーぶ」の果たすべき役割です。

「まーぶ」をかせぐために、子どもたちはコミュニティの中のだれかのためになることに関わっていきます。そこで生まれるのが、コミュニケーションであり、社会的な“つながり”です。「まーぶ」を稼ぐ/使うという行為の中で、こどものときから、家や学校、友だち以外の“つながり”をたくさんつくる経験を得て、社会の中で生きていく力を身につけていきます。

